ほんがいっぱい　よんでみよう！

おすすめのほん

５・６年生のための本

①『ナイチンゲールが歌ってる』

ルーマー・ゴッデン／作　脇明子／訳
網中いづる／絵　岩波書店《Fゴ》

ロッティはバレリーナをめざす十歳の女の子。寄宿制のバレエ学校を受験することになっていた。ある日、ロッティはペットショップから子犬が盗まれるところを見て、思わずその子犬を助けて家に連れ帰ってしまう。寄宿学校には、子犬を連れていくことはできないのに…。

②『ライオンと魔女』

C．S．ルイス／作　瀬田貞二／訳
岩波書店　《Fル》

いなかの古い屋敷にやってきた４人兄弟は、さっそく屋敷の中の探検を始めた。衣装ダンスの中に入ったルーシィが、洋服をおしのけ踏み込んでいくと、そこは、一面の雪景色…ナルニアの国だった。“ナルニア国ものがたり”シリーズ全７巻の１巻目。

③『クローディアの秘密』

E.L.カニグズバーグ／作　松永ふみ子／訳
岩波書店《Fカ》

クローディアは家出を計画し、弟を誘ってニューヨークのメトロポリタン美術館の中にかくれ住むことにした。計画は、大成功！そこで二人は、美しい天使像に出会い、その秘密を探ることに…。

④『天の台所』

落合由佳／著　講談社《Fオ》

ばあちゃんが亡くなってから、食事は惣菜や弁当ばかり。長男の天は慣れない家事に不安で余裕がないし、弟や妹も元気がない。ある日、近所にある「がみババ」の家からいい匂いがしてきて、思わずのぞき込むと…。

⑤『中国のフェアリー・テール』

ローレンス・ハウスマン／作　松岡享子／訳
福音館書店《Fハ》

ある画家の家で、下働きをしているティキ・プー。彼の胸につのるのは、絵を描きたいという熱い思いでした。やがてティキ・プーは、ひそかに盗んだ紙で絵を描くようになります。そしてある夜、三百年前に描かれた美しい絵を見つめていると、不思議なことが…。

所沢市立所沢図書館　２０２５年

⑥『竜が呼んだ娘１』

柏葉幸子／作　佐竹美保／絵　講談社　《Ｆカ》

ミアの住む村では、十歳になると竜に選ばれ、村の外へ出ていく子がいる。それは名誉なことだが、ミアは外の世界が怖くてたまらない。そんなミアが選ばれ、都の王宮で働くことに。ところが、仕えるはずのウスズ様の姿はなく、毎晩泣き声だけが聞こえてきて…。

⑦『絵で旅する国境』

クドル／文　ヘラン／絵
なかやまよしゆき／訳　文研出版　《３２》

世界地図には国境という国と国とをわける線がある。かんたんに行き来できるところ、できないところ、山や砂漠にもあり、国境をこえて人やもの、文化がやってくる。さあ、この本で世界をめぐる旅に出かけよう。

⑧『冒険者たち』

斎藤惇夫／作　藪内正幸／画
岩波書店　《Ｆサ》

嵐の夜、ガンバたちの宴会に血まみれの島ネズミがあらわれた。島ネズミはイタチに襲われていて、助けを呼ぶために命がけで脱出してきたのだ。島ネズミを救うため、ガンバたちは立ち上がった。

⑨『太陽の東　月の西』

アスビョルンセン／編
佐藤俊彦／訳　岩波書店《M》

食べられては大変と、パンケーキはなべから外へととびだした！ころころころがって、どこまでにげていけるかな？他にも北国ノルウェーの民話が楽しめるよ。

⑩『釣って食べて調べる深海魚』

平坂寛／文　キッチンミノル／写真
長嶋祐成／絵　福音館書店《４８》

海面から200メートルより深い海でくらす深海魚。ふつうの魚とはちがう姿や色をしています。なぜ深海でくらしているの？おいしい深海魚が多い理由は？深海魚の謎や魅力がいっぱい！

⑪『みんなそれぞれ心の時間』

一川誠／文　吉野晃希男／絵　福音館書店《１４》

楽しい時間はあっという間、退屈な時間は長く感じたことはないですか？それは「時計の時間」とはちがい、「心の時間」が進んでいるからです。この本を読んで「時間」について考えてみよう！

⑫『だれよりも速く走る義足の研究』

遠藤謙／[著]　偕成社《４９》

遠藤さんはロボットにあこがれて研究を始めた義足エンジニア。留学先のアメリカで「世のなかに身体障害者はいない、技術のほうに障害があるだけだ」という言葉を聞き、義足の研究をつづける。

⑬『詩はきみのそばにいる１』《91．1》

日本児童文学者協会+ポプラ社編集部／編　ポプラ社

きみの心が歌いだすとき、詩は…きみに問いかける。きみを迷わす。おどろかす。ときめかす。谷川俊太郎の詩からＹＯＡＳＯＢＩの歌詞まで、色々な詩がいっぱい！